



はるにれ

海老名市立有馬小学校 学校だより

令和3年8月27日号

発行者 遠藤 一義 (校長)

「2学期のスタートにあたり」

緊急事態宣言下での2学期がスタートしました。8月23日付「教育長メッセージ」でもありました通り、「市立小中学校『学校の新しい生活様式』ガイドライン」に沿って、感染防止対策の強化・徹底を図りながら教育活動を進めていきます。つきましては、以下の2点をあらためて確認してください。



- ①健康管理カードでの児童、およびご家族の健康観察を徹底してください。
- ②陽性が認められた時はもちろん、ご家族が濃厚接触者の疑い、また発熱や体調不良がある場合は登校を控えさせてください。

これは、「学校内でのクラスター防止」のためであり、「ウイルスを校内に持ち込まない」ことがカギとなります。また、マスクの適切な着用もポイントです。濃厚接触者の判断で、「マスクの着用」において鼻の見える状態やあごにかけただけの状態では「不適切な状態の着用」となり、着用なしと同様に判断されるようです。



連日テレビでは、「不要不急の外出を控える」と言われる中、自粛疲れという言葉のもとに大人が繁華街に繰り出している様子や、子どもたちのパラリンピックの観戦意義は高いと推奨しながら、修学旅行は中止や延期を検討要請、というニュースが流れています。感染状況に関わらず、様々な決定をいつも大人が行い、子どもはその決定に従うことしかできません。子どもたちの教育活動を保障するためには、大人が今の感染状況を改善させるしかないのです。保護者やご家族、地域の皆さま、そして私たち教職員、その他すべての大人が本気で感染拡大防止に取り組み、海老名の状況、神奈川の状況、全国の状況を改善させることが、子どもたちを「我慢」や「あきらめ」から解放することになります。ご理解とご協力をお願いいたします。

感染症拡大防止にご協力ください



「トム・ホーバスHC語録」

オリンピックでの日本女子バスケットボールチームの快進撃には、バスケットをよく知らない人も驚いたのではないのでしょうか。

◎「僕は金メダル取れる気持ちが心からあります。で、信じていないなら優勝できない。信じていないなら、(体が)大きいチームに勝てない。自分の力を信じていないなら何もできない」

→選手との信頼関係・自分の信念(自信)

◎「3ポイントを40本打って、4割の確率で決めたい」 →達成に向けた具体的数値目標

◎「このステージで日本の綺麗なバスケットを見せたかった。良くやったと思います。スーパースターはいないけど、スーパーチーム。素晴らしい」 →取り組みに対する最大限の評価

(「トム・ホーバス ヘッドコーチ」語録より)

野村克也氏は「勝ちに不思議な勝ちあり、負けに不思議な負けなし」を座右の銘にされていましたが、トム・ホーバスHCの言葉は、「勝ちも不思議な勝ちなし」と思わせてくれます。私も連日応援しながら、「コーチング」というものの奥深さを実感しました。



★9月の主な行事予定★(8/27時点)

- 1日(水) 身体計測 1, 2年, ひまわり級
- 3日(金) 出前おはなし会(4年)
入林・ケイ安全教室(1, 2年)
- 6日(月) 個人登校開始
- 7日(火) 入林・ケイ安全教室(3~6年)
修学旅行説明会 15:45
- 13日(月) 火曜日日課(6時間)
- 14日(火) 月曜日日課(5時間)
- 30日(木) 野外教育活動説明会 15:45

※通常の学校業務日の電話対応時間は、**8時から17時30分まで**となっています。長期休業中や全教職員研修のための出張日等は、8時30分からとなったり17時までとなったりする場合がありますのでご理解をいただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

●本郷にお住いの池亀様から「終戦75年を前に」という手紙(2020年8月執筆)をお預かりしました。「戦争は絶対にしてはならない」という思いを手紙の中からはひしひしと感じます。ぜひご家族と一緒に読んでください。(裏面掲載)

しゅうせん ねん まえ
終戦75年を前に

1944年、国民学校一年生として入学、その頃になると太平洋戦争真っ只中、毎日毎晩空襲警報が発令、夜は敵機に明かりが漏れないようにと灯火管制が敷かれ、電灯の笠に黒い布を巻き付けての生活、学校生活も警報が出ると正門を右に下りる途中に防空壕が左右にありよく逃げ込んだ。戦争は勉強どころではない。

校舎は平屋で第一第二校舎に分かれていて三ヶ所の渡り廊下で繋がっている。小使室は正面玄関を真直ぐ第二校舎に行く渡り廊下の中ほどに有った。其の渡りを突き当たり右側教室前の廊下、二年生になっていつごろか何校時目かの休み時間、突然キーンと鋭い音、バリバリバリとP51の機銃掃射、北東方面から南西方面に廊下を等間隔斜めに穴が開いた。幸い怪我の人も出なかった。有馬地区は東に海軍航空隊厚木基地、北隣は横須賀海軍基地や横須賀市民に送水している浄水場が在り、此处を狙い艦載機が飛来、厚木基地には、P51が蠅の様に飛び回り迎え撃つ大砲の煙で空が黒くなるが当たらない。

何時の頃から、暑い夏の夜B29爆撃機が平塚を空襲、高い所からキラキラと焼夷弾、空が赤く染まったさまは忘れられない。やがて、広島・長崎に新型爆弾が投下されたと誰となく耳にした。

がつ にちしゅうせん きょくおんほうそう
8月15日終戦（玉音放送）

この日も朝から暑い日だと覚えている。昼前隣のお爺さんが、家のラジオが壊れているので聴かせてと来られ、座敷に正座してラジオに聴き入っておられたが、我は何だかわからない。天皇陛下の言葉を聞いてお爺さんは戦争終わったとひと言で帰られた。

この日から戦争はないが生徒は大変、秋にはイナゴ捕り、田圃で落穂ひろい、寒い冬は畑に出て麦踏、農繁期には家の手伝いや子守で学校を休む。勉強は教科書が薄く一学期に何回かに分けて配布され、帳面（ノート）は硬い芯の鉛筆だと破ける大変粗悪な紙。

弁当の時間は、学校通達で農家の子供達もさつま芋を持ってくるようになり、朝母親がさつま芋を焼いたり蒸したり、この頃は都会から避難して農家や寺などに疎開しての生活の人達がおられ、そうした子供達への心遣い、同じ教室で勉強当たり前のことだが、ここからが本当の食糧難の始まりで皆配給生活。

空襲警報・防空壕・農家への勤労奉仕・子守や手伝い・物不足の中での勉強・戦前と戦後の教育の違い。絶対に戦争は惨め、やってはいけない、そのように思うこの頃です。

注1：ご本人の了解を得て、一部表現を変えさせていただきました。

注2：多くの子どもたちに自分の目で読んでほしいと思い、ルビを加筆しました。難しい言葉はお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんに聞いてください。（遠藤 一義）